

夢を持つ大切さ語る 金沢

元五輪選手 高校で特別授業

2018年の平昌五輪
にソリ競技のスケルトン曰



授業をする小口さん（21日、金沢市の第一学院高校金沢キャンパスで）

本代表選手として出場した輪島市出身の小口貴子さん（34）が21日、金沢市堀川新町の第一学院高校金沢キャンパスで特別授業を行い、夢を持ち続ける大切さを語った。

小口さんは、父親の病気で競技を諦めたり、ソチ五輪に出場できなかったりした経験を乗り越え、平昌五輪に出場したことを紹介した。現役から退いた小口さんの願いは多くの子供に夢を持つことの大切さを知ってもらいたい、参加した生徒約30人に対し、「夢を実現させるために何ができるかを考えることが重要だ」と訴えた。

特別授業に参加した3年生遠田拓己さん（17）は「夢を諦めなければ、結果が伴わなかったとしても、良い経験になることが分かった」と話した。

同キャンパスでは、生徒に進路や仕事について考えてもらうことを目的に、年8回ほど特別授業を行っている。